

周波数オークションの導入に関する提案について

2011年5月27日(金)

KDDI株式会社

導入目的に関する主な意見

1. オークションを導入するのであれば諸外国の導入事例を広く参考にし、ユーザの利益や電気通信市場の発展に繋がるものとなる視点が必要であり、我が国にとって最適な導入目的となるよう検討されることを強く希望します。
2. 仮に導入後に成果が十分得られないこととなれば、多額のオークションコストは不必要な負担を課すこととなり、電気通信の健全な発展を阻害するばかりでなく、産業界の損失にもなりかねません。このため、導入目的の明確化に加えて、導入効果をシミュレーション等によって十分検証していただくことを希望します。



オークション方式の導入による効果等(比較審査方式で実際に生じた問題の改善を含む)について、国民に分かりやすい説明が必要と考えます。

論点の追加（１）

日本に特徴的な市場や産業、地理的環境等を踏まえた、今後の携帯電話産業の発展を目指すオークション制度の形態

1. 日本の携帯電話産業は、新技術の早期導入や高度化のみならず、高機能端末の採用、コンテンツやアプリケーションの普及等、オペレータが中心となってメーカーやコンテンツプロバイダ等と共に新しいサービスを創出し、ユーザの利便性を高め、経済を活性化してきたところ。
2. オークション制度が導入された場合に、落札価格の高騰によって過度の負担が生じ、これまでのような先進性の追及や積極的な新サービスへの挑戦に、業界全体がブレーキをかけるようになることを強く懸念。
3. 携帯電話産業のビジネスモデルが海外とは異なる日本において、諸外国で成功しているオークション制度を単純に導入し失敗することのないよう、様々な観点でオークション制度の形態についてご検討いただきたい。

論点の追加（2）

オークションの対象とする周波数について、将来(中長期)に渡って対象となる周波数を予め公表するような仕組みを導入することが適当なのかどうか

1. 近年のデータトラフィックの伸びは予想を上回るペースとなっており、インフラ整備をはじめとする事業計画の策定にあたっては、周波数の需要予測が重要になっている。
2. 安定したサービスを継続して提供していくためには、必要な時期に必要な周波数を確保できることが理想であるものの、周波数移行に伴う再編を経て新たな周波数割当てがなされる現状においては、必ずしも需給時期が一致するとは限らない。
3. 将来に渡りオークションによって割当てられる周波数を予め示していただくことによって、適時に適正な落札価格を入札できると考えている。